

指導の形態 教材等	自立活動「粗大運動」 ～児童の特性に配慮した指導～	障がい種 等	特別支援学級 肢体不自由
--------------	------------------------------	-----------	-----------------

### 授業の概要やよさ

- ・広い運動場を歩いたり、施設・遊具を使ってバランス感覚を養い、筋力の維持・向上を図る。
- ・股関節の伸展や屈曲を楽しみながら効果的に指導できるようにする。
- ・動きの変化を体験していく中で、体の動かし方や体を動かすために必要な方法を感覚的に学ぶことができる。

### 児童生徒の様子

- ・上肢麻痺のため、両手の連動した動作や、細かい指の運動、力加減が困難である。
- ・足首固定用のサポーターとシューズを着用している。
- ・会話によるコミュニケーションが難しい。

### 目標



日常生活の中での動作（体操服の着脱（教師の支援あり）、給食室まで一人で歩く、タオルをフックにかける、頭上の置かれた帽子を取る等）を、自らの手足を動かしてやり遂げたり、物を乗り越えて（15cm程度の高さ）移動したりする。

### 支援のポイント

#### ①足の踏み込み、踏ん張りの力

築山（人工的に作った山）に登ったり下ったりすることで、足の踏み込み、踏ん張りの力をつける。



#### ②かがむ姿勢

鉄棒をくぐることで、手で鉄棒を確認してかがむ姿勢を身につける。



#### ③手の使い方、移動

体育館のスロープの手すりをもち、障害物をまたぐことで、手の使い方、体の移動の仕方を覚える。



#### ④体のバランス

体育館外の階段を上り下りすることで、体のバランスのとりかたを覚える。



#### ⑤手足を使いながら移動

タイヤを乗り越える。頭を下げて土管の中を這って降りたり滑り台の階段を登り、滑って降りたりして、立つたり座ったり、四つん這いになったりして体の位置を変えて手足を使いながら移動することができるようになる。



#### ⑥足あげ

ブランコで、足をあげる意識を持ち、体の動きを感じることを練習をする。



#### ⑦上を見上げる

吊り輪に手を伸ばすことで、上を見上げることで、手を上に伸ばす感覚を身につける。



※児童生徒の各関節の可動域（動かすことが可能な角度）をあらかじめ把握し、体調に留意して行う。  
※関係機関と連携を図りながら行う。